

信濃毎日新聞

1873年(明治6年)創刊

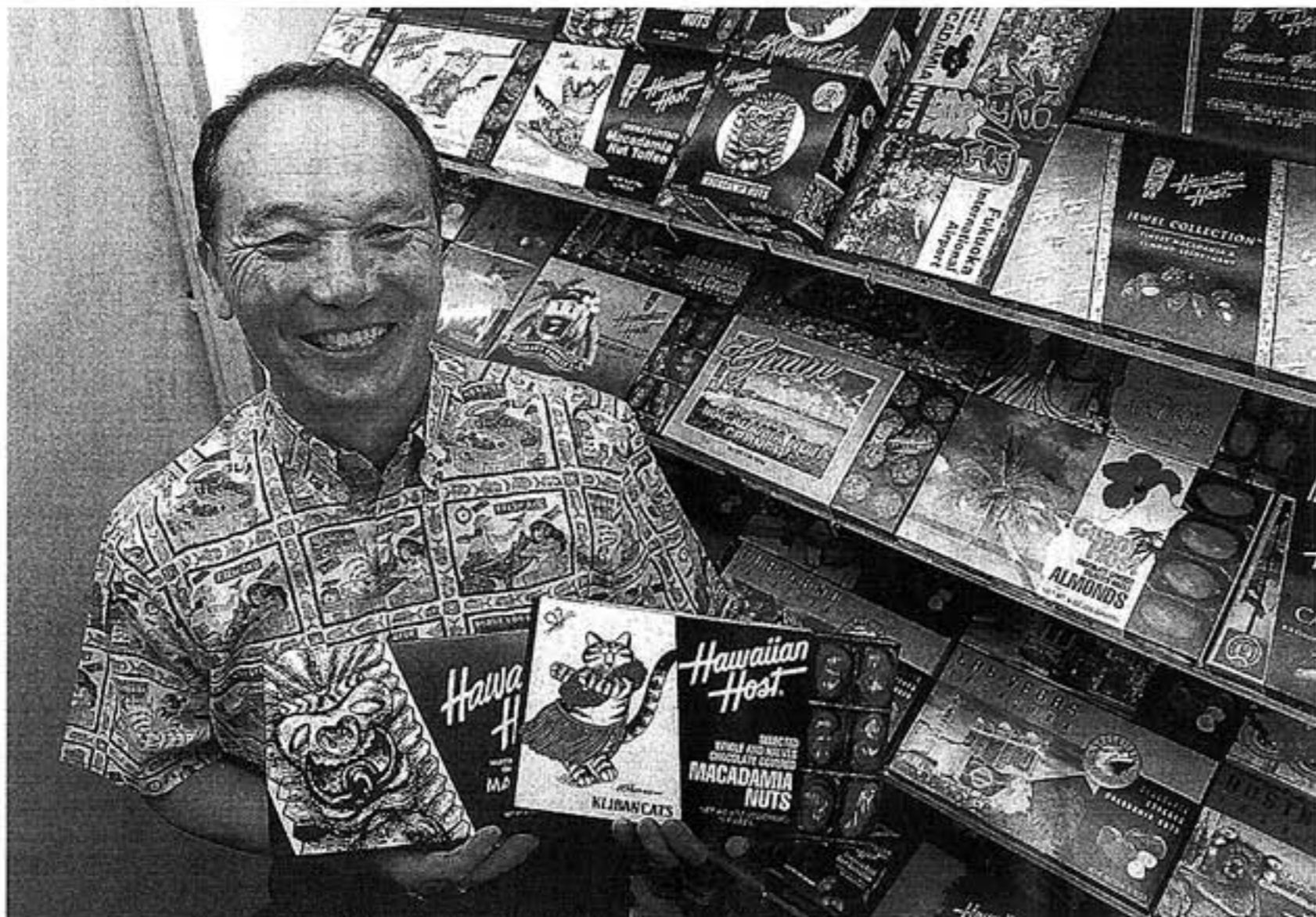
夕刊

発行所

信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南東町 657番地
電話(026)
受付 236-3000 編集 236-3111
販売 236-3310 広告 236-3333
松本本社 〒399-8711
松本市宮田 2番10号
電話(0263) 編集 25-2151
販売・広告・事業 25-2153
©信濃毎日新聞社2006年

「ハワイアンホースト・ジャパン」社長

小松 克廣さん



ずらり並んだ商品を前に、「老舗の良さを生かしながら、少しずつ新しいものを付け加えていくことが必要」と話す=東京・港区のハワイアンホースト・ジャパン

ハワイ土産の定番とも「ジャパン」(東京)の社ブランドで、こんなに長く続ける輸入菓子会
「商品を通してハワイ社はうちくらい」。言葉開いた。伊那北高校卒業まで、同町内で過ごした。上智大学に進学、英語
「ハワイアンホースト」を日本に伝えることもわ 六十二歳。第二次大戦 学科で学んだ。卒業後、
「教授に れわれの仕事」二つの 末期の東京で生まれ、父 ハワイ大学へ。

勤められた。たまたま機 持っ形にしており、会社
会があつて」という留学 の利益は財団を通じて奨
だったが、そのままクア 学金などとして社会に還
ムの観光バス会社に就 元される。「利益は上げ
職。「人に使われるのは 面白くない」と、一九七
八年、一人で、日本の旅 行会社にハワイ土産など
を卸す会社を興した。

「人間的関係や組織に縛られるのが嫌だった面もある」というが、今はそうでもない。都内に住む高校時代の友人と集まったり、同級会で帰郷したりすること多い。「年を取ってくると不思議なもの」と笑う。

ある。こっちは帰ってきて難しかったのは、そのギャップ」と話す。それでも日本流に合わせるのではなく、自分のやり方を通して来た。
日本での販路は今、大きく二つある。ハワイへ旅行する人たちが対象にしたカタログ販売と、輸入菓子専門店などへの卸だ。

チョコ輸入自分流貫く

「人間的関係や組織に縛られるのが嫌だった面もある」というが、今はそうでもない。都内に住む高校時代の友人と集まったり、同級会で帰郷したりすること多い。「年を取ってくると不思議なもの」と笑う。

かつて米国へ渡ったのは「人間関係や組織に縛られるのが嫌だった面もある」というが、今はそうでもない。都内に住む高校時代の友人と集まったり、同級会で帰郷したりすること多い。「年を取ってくると不思議なもの」と笑う。

新 びと しい人

首都圏から 71

なければならぬ。これだけ、もうけ主義ではない。そこも気に入った。「ハワイアンホースト・ジャパン」社長に就いたのは八年前。「アメリカは全部本音だけれど、日本の社会は本音と建前

福祉タクシーの
ご利用をお待ち
しております

やさしさと真心で
お出掛けをサポート
いたします。
お気軽にお電話
ください。

松代タクシー(株)
本社 ☎026-278-3535
配車センター
☎026-278-7000

信毎ホームページ
www.shinmai.co.jp